

# 地域ぐるみで お母さんと赤ちゃんを守る

適切な医療サービスを受けることができず、失われていく命がある。そしてその多くは、抵抗力の低い、開発途上国の妊産婦と5歳以下の子どもたちだ。彼らが、安全に、健康に暮らしていけるような環境づくりを。アジア最貧国として知られる Bangladesh では、JICA の支援により、MDGs の達成を目指し、地域ぐるみで「安全なお産」に向けた取り組みが進められている。



助産師の介助を受け、病院で出産した女性と生まれた直後の赤ちゃん。定期健診や病院での出産により、母子共に健康が維持できる



Bangladesh  
ダッカ  
ノルシンディ県



地方行政であるユニオン評議会の議長も積極的に母子保健活動を支援。妊婦の緊急時のための貯金を奨励し、貯金箱を配布している

## 新しい命の誕生― 出産に立ちほだかる危険

今こうしている間も、世界の至る所で、たくさんの命が誕生している。そこにいるのは、「出産」という大きな仕事を担う母親、そして、この世に生を受けた赤ん坊。しかし開発途上国では、貧し

さ故に、この幸せな瞬間が、彼らの命が、脅かされている。子どもを授かることは、誰にとっても大きな喜び。妊娠が分かる定期的に健診を受け、まだ見ぬわが子の誕生を待ち望む。そして、助産師の立ち合いのもとに出産し、産後もしばらく病院に通って経過観察をする、というのが先進国では普通だろう。

しかし、このような産科サービスが十分に行き届いていない途上国では、医師の診断を一切受けることなく、自宅出産をする女性も少なくない。その結果、妊娠中毒症、出産時の事故、合併症などを引き起こし、多くの妊産婦(10万人中450人)と乳幼児(1000人中74人)が命を落としている。そしてその大半が、

国内でも特に保健指標の数値が悪いこの地域で、草の根レベルの住民から地方・中央の政府レベルまで、幅広い層を巻き込みながら、妊産婦・新生児死亡率の削減を目指している。

## 地域の母子を助けるのは コミュニティの役割

「プロジェクトが最も重視したのは、地域の人々が主体となり、安全なお産ができる体制を確立していくこと」と、吉村幸江 JICA 専門家は強調する。そのために活用したのが、現地 NGO

が他県で採用していた「コミュニティサポートシステム(CmSS)」。住民がコミュニティごとに CmSS 運営グループを設立し、医療施設と連携しながら、妊産婦が、必要なサービスを適切なタイミングで受けられるような仕組みづくりを行っているというのだ。

CmSS の主な役割は、地域内の妊産婦の登録・状況把握、緊急時の搬送手段や資金の確保、妊産婦健診や予防接種などの情報伝達、住民に対する啓発活動などさまざま。プロジェクト

トでは、住民の組織化から、各活動の計画づくり・実施に至るまでをサポートしている。医療関係の人材不足が特に深刻なへき地では、やる気のある中卒以上の女性を募り、半年間の助産師研修を実施。出産の介助に携わる人材の育成にも取り組む。また、老朽化が進む医療施設には、手術室や分娩室の改修、診察に必要な機材の供与・修理なども支援。とはいえ、すぐにモノを渡すのではなく、まずは施設ごとに調査を行い、何が足りないか、何が必要かを議論しながら、共に問題解決への道を見いだしている。さらに、中央、県、郡ごとにプロジェクトをモニタリングする委員会を設立し、定期的に政府関係者が CmSS の

(上) CmSS のメンバーが中心となり、妊婦とその家族を対象とした講習会がそれぞれの自宅で行われる。(下) ヒンズー教では、産後の母親と赤ちゃんが一定期間小屋に隔離されるのが習慣。プロジェクトの支援により、これまで古く風通しが悪かった小屋が衛生的なものに改善された



リキシャで運ばれる妊婦。住民同士が協力し、緊急時の病院搬送システムも定着しつつある



活動を視察している。「このような地域ベースの取り組みを国の政策につなげていくことが、CmSS の持続的な活動につながる」と考えています。プロジェクト開始から4年余り。かつては、自宅出産が9割近くを占めていたこの地域で、住民同士の呼び掛けにより、公立病院における産科サービスの利用者が5倍近く増えた。その成果が認められ、ノルシンディ県の「安全なお産」への取り組みは、Bangladesh 政府が「ノルシンディモデル」として高く評価。今度は彼ら自身の手により、全国展開に向けて準備が進められている。

「今では住民が自ら問題分析を行い、活動計画を立てるまでになりました」と吉村さん。「彼らは『JICA がいなくなっても自分たちで続けていく』という強い意志を持っています。住民たちに、無限の可能性とパワーを感じています」。

地球上から、一つ足りとも無駄に失われる命があつてはならない。ノルシンディモデルは、その解決に向けた一歩にすぎない。世界中の母親と赤ちゃんを守るため、私たちがすべきことはまだまだたくさんある。

※「Bangladesh MDGs プロGRESS レポート2007」より。

ノルシンディ県では青年海外協力隊の助産師隊員と村落開発隊員が活動中。人形劇などを活用して、住民への啓発活動を行っている

